

郵便
報知新聞
第四百八十一号

深川の唄妓小三井上又雄翁の弟子とて
歌の達吟手跡も美事と云ふれば大時
譽あり其妹のたけあも姉と続て此二藝
と能くも上心と云はしく正しければ
掛く頼む男の外更ふ移さず香をにせ
さじと或る時去る大家の隠居の骸
歌も腰折る人目と思ひて葉の短冊
を以て袂に入れば何やらと云ふに
おもしろき命うと云ふと思ふに
君のひそかの露のあまけに
とほりかゝる果て果てしき年寄
に赤いせんもさうに思ひを端の
一枝梨花壓海棠餘所ある目も
いらぬと認めて戻せんとて

松林伯圓記



金錦堂

郵便報知新聞481号 文庫10-8060-11

早稲田大学図書館蔵 / Waseda University Library